

クレーン用タイヤ(ORタイヤ)の運行前点検について

クレーン用タイヤは、乗用車やトラック用タイヤに比べて空気圧が高くエア量も多い為、万が一バーストした場合は周辺に与える危険性が高くなり非常に危険です。運行前には必ずタイヤの点検を実施してください。点検の結果、異常が発見された場合は、直ちに新しいタイヤに交換してください。

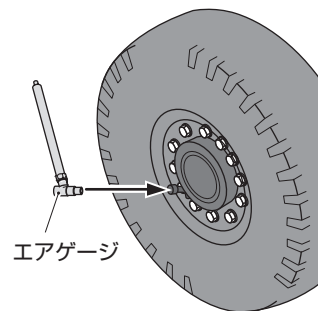
タイヤの運行前点検のポイント

エア圧の点検

エア圧の点検は走行前のタイヤが冷えた状態で測定してください。

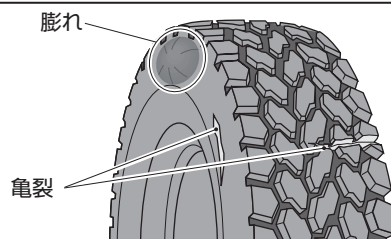
1. 正確なゲージを使用してタイヤのエア圧を点検します。
2. エア圧の不足・過充てんをしないよう適正エア圧に調整します。
※エア圧の不足・過充てんはタイヤが損傷したり、事故等につながるおそれがあり危険です。
3. エア圧の測定後およびエア充てん後、バルブキャップを取り付けます。

サイズ	適正エア圧
325/95R24	900kPa
385/95R25	
445/95R25	
505/95R25	800kPa



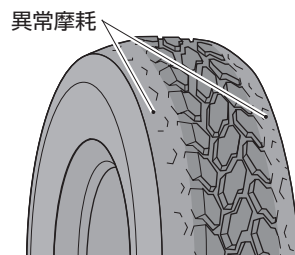
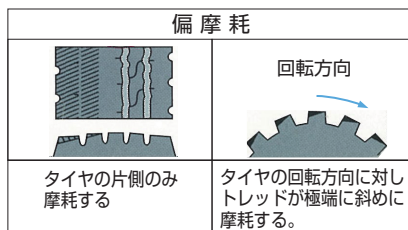
タイヤの亀裂、損傷、膨れの点検

1. タイヤの接地面全周や側面に著しい亀裂や損傷がないか点検します。
2. くぎ・石・その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないか、タイヤ全周を点検します。
3. タイヤ側面に膨れがないか点検します。



タイヤの異常摩耗の点検

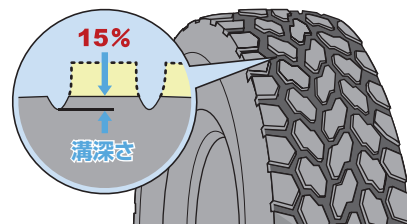
1. タイヤの接地面に異常な摩耗がないか点検します。
2. 異常な摩耗があるときは、新品タイヤに交換し、異常摩耗の原因を整備します。
異常な摩耗とは、接地面が均等に摩耗せず、極端に偏摩耗が発生した場合をいいます。



タイヤ溝の深さ点検

1. タイヤ溝が十分に残っているか点検します。
残り溝約3mm～4mmが使用限度の目安
【注1】新品時の溝深さの15%が使用限度。
2. 重量が重いクレーンでは安全性確保のために、早めの交換をお願いします。

【注1】(社)日本建設機械施工協会「建設車両用タイヤの選定・使用・整備基準」に基づく。



経年変化について

長期間使用したタイヤは、溝深さが使用限度に達してなくても、ゴムの劣化(ひび割れ、亀裂、亀裂からの水分侵入など)により故障を招く可能性があります。特に使用開始後5年以上経過した場合には運行前点検をしっかりと行ってください。

※タイヤ交換後は、ならし走行(急発進・急ブレーキ等はしない)をしてタイヤをなじませてください。(目安として走行距離200km以上)

※これらの点検にて異常が発見された場合にはすぐにタダノ指定サービス工場にご相談ください。

メンテナンスのご用命はタダノ指定サービス工場へ



株式会社 タダノ CS企画部作成